



野田建築会会報
NAA NEWSLETTER

VOL.47



撮影：野原聡哲

野田キャンパス新実験棟 外観

2022 AUTUMN

NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION

第13回 定期総会報告

五十嵐 洋也 (1978年卒業)

本年も、オンライン形式で開催されました。オンラインにより兵庫県、鹿児島県からも出席いただき、滞りなく、会は開催され、総会は成立しました。野田建築会は、常任幹事で構成する事業部会、会報部会、名簿部会、情報部会において、具体的な活動を運営しています。各部の2020年4月～2022年3月までの活動報告と2022年4月～2024年3月の活動計画案が示され、また、本会の役員・常任幹事の各人の構成が提案され、承認されました。詳しくは、HPの別に掲載されている議案書をご確認ください。

第13回定期総会は、2022年5月28日(土曜日)に開催されました。総会員数(7,061名)の1/60(118名)(会則第10条)を満たす171名(出席者9名、議決権行使書162名)の参加者がありました。

栗飯原元会長の挨拶から始まり、事務局より活動報告がありました。

そして、次の議案について審議され承認されました。

第1号議案： 事業部会 2020年度、2021年度の活動報告 および 2022年度、2023年度の活動計画(案)

第2号議案： 会報部会 2020年度、2021年度の活動報告 および 2022年度、2023年度の活動計画(案)

第3号議案： 名簿部会 2020年度、2021年度の活動報告 および 2022年度、2023年度の活動計画(案)

第4号議案： 情報部会 2020年度、2021年度の活動報告 および 2022年度、2023年度の活動計画(案)

第5号議案： 会計および監査

2020年度、2021年度の会計報告・監査報告 および 2022年度、2023年度の予算(案)

第6号議案： 任期満了に伴う役員改選について

第1号議案から第4号議案については、事業部会の各部会長から説明があり、一括審議となり承認されました。

第5号議案： 会計および監査

審議、承認されました。

第5号議案： 会計および監査

<決算>

項目	決算	
	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)
1. 収入		
年会費	663,000	573,000
寄付	137,000	46,000
年会費二重払い	0	0
総会・懇親会費	0	0
広告収入	112,000	280,000
HCDガイドブック同封書	0	5,000
利息	4	4
合計	912,004	904,004
2. 支出		
名簿部会	88,000	88,000
情報部会	116,580	105,580
会報部会	482,655	755,310
事業部会	63,750	43,700
会計(経費)	2,750	7,140
シアターナイト協賛金	23,152	20,000
合計	776,887	1,019,730
3. 収支		
収入	912,004	904,004
支出	776,887	1,019,730
収支	135,117	-115,726
前期繰越金	3,105,389	3,240,506
次期繰越金	3,240,506	3,124,780

<予算>

項目	予算	
	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)
1. 収入		
年会費	633,000	693,000
寄付	200,000	150,000
広告収入	224,000	224,000
合計	1,057,000	1,067,000
2. 支出		
名簿部会	88,000	88,000
情報部会	122,580	178,000
会報部会	678,700	678,700
事業部会	26,000	26,000
会計(経費)	15,000	30,000
シアターナイト協賛金	20,000	20,000
NODAアーキサロン	40,000	40,000
祝賀会お祝い金	60,000	0
合計	1,050,280	1,060,700
3. 収支		
収入	1,057,000	1,067,000
支出	1,050,280	1,060,700
収支	6,720	6,300
前期繰越金	3,124,780	3,131,500
次期繰越金	3,131,500	3,137,800

第6号議案：任期満了に伴う役員改選について
審議、承認されました。

■新役員のご紹介

- 会長** 菱崎嘉昭 (1987卒)
- 副会長** 大野芳俊 (1988卒)、野原聰哲 (1988卒)、
鳥山暁子 (2001卒)
- 事務局** 粟飯原功一(1985卒)※局長、
白岩和浩 (1985卒)※局次長
- 会計** 白岩和浩 (兼任)、八田直人 (1980卒)
- 監査役** 立見栄司 (1970卒)、堀部加壽春 (1976卒)
- 顧問** 山崎晃弘 (1976卒)
- 事業部会** 五十嵐洋也 (1978 卒)※部会長、
八田直人 (兼任)、出塚哲也 (1984卒)、
野原聰哲 (兼任)、佐久間達也 (1993卒)、
児玉雅美 (2001卒)、
宮宅勇二 (1976卒) ※関西地区担当
- 会報部会** 大野芳俊 (兼任)※部会長、鳥山暁子 (兼任)、
野原聰哲 (兼任)

- 名簿部会** 小長谷哲史 (2003卒)※部会長、
出塚哲也 (兼任)、涌井栄治 (1985卒)、
白岩和浩 (兼任)

- 情報部会** 児玉雅美 (兼任) ※部会長、高安重一 (1989卒)

閉会后、菱崎嘉昭新会長よりご挨拶を賜りました。



第13期 新会長挨拶

平素は、野田建築会へのご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。2022年5月28日に開催された野田建築会第13回定期総会において、会長に新任した、菱崎(1987卒、1989大学院修了)です。これまで諸先輩方々や、学生・OBの方々のご支援で築きあげられてきたこの組織を、承継し、さらなる発展をさせていくことが役割と認識し、努めてまいります。

また、大学・学生を支援することが重要な役割と考えています。本会の位置づけを理解いただき、皆様が参加して成り立っているような組織創りを目指してまいります。

本会は、「会員の親睦をはかり、会員の研鑽を相互に支援して、建築文化の発展に寄与することを目的とする」と、会則第2条に記されています。建築文化の発展ということばが、少々難しく捉えられると思いますが、我々の日々の仕事や研究、学習の活動が、実は何らかの建築文化に寄与しているものであり、それを、われわれ会員の親睦をはかることで、相互の支援、研鑽され、発展させることと理解しています。建築文化の発展を、広義にとらえていただき、様々な見解、ご意見を発信いただければ幸いです。

本会では、OB・学生がともに参加できる企画を考えています。対面&WEBでの開催を考慮ご都合に合わせて、どこからも参加できる用意をし、離れた会員の方も、ご参加いただけるような企画を構想中です。また、築理会(工学部建築学科の交友会)との交流を深めていくイベントを企画中です。そして、本会は、理窓会関連団体として、大学からも認められた組織となり、大学の理窓会の運営にも携わっていきます。

本会を承継・発展のため、会員みなさまとの強い連携が必要です。本会のイベントにご参加あるいは内容を閲覧いただき、本会をご理解いただくことをお願いいたします。先が見通すことが困難なこんな時代だからこそ、われわれの連携が必要だと信じています。どうか、ご支援、ご指導を賜りますよう、よろしく申し上げます。

2022年6月吉日



菱崎 嘉昭 略歴

- 1964年 徳島県生まれ
1987年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
(上原研究室)
1989年 東京理科大学理工学研究科
建築学専攻修士課程修了(上原研究室)
1989年 株式会社穴吹工務店入社
1年の施工管理(研修)後、設計部に配属
株式会社穴吹工務店設計部
現在 主に、分譲マンションの企画、設計、監理に携わる

これまでのミュンヘンでの経験



いちかわ ともひで
市川 智英

2005年 川向研究室卒業
2007年 名古屋工業大学北川研究室
修士課程修了
2008年～2019年
Peter Haimerl Architektur
(Munich Germany)
2021年 Koehler Architekten
(Munich Germany)

僕は学部卒業後運河から離れて地元名古屋で修士を終え、ミュンヘンで出会った建築家の元で働き、その後も建築家として働きながらこちらで生活をしています。

学生時代は全く設計のできる生徒ではなかったのですが、理工4年間は僕が設計にまだしがみついている大きなモチベーションです。とにかく建築に向かっていくというあの空気は、集団としてはその後見たことがありません。その影響で幸運にも尊敬できる建築家に出会い、出来ることをコツコツと増やして今に至ります。



Blaibach 村役場とコンサートハウス

当初僕は、ドイツ語初級を終えた程度、英語も片言、何より当地の設計標準仕様を全く知らない状態。所謂アトリエ系の小さな建築事務所で、薄給でのスタートでしたが、彼と作品に魅力を感じていたので、まずはがむしゃらにやってみようと思えました。経験のなかった3Dでの作業に慣れる必要がありましたが、最初にこれを習得できたのも幸運でした。



農家の改修 01

肝心の設計では、彼の建築家としての能力、都市・建物全体・ディテールのスタディ往復の速度・密度に全くついていくことが出来ませんでした。彼の元でのこの鍛錬が今の僕の礎です。また、自分の生まれ故郷の文化復興活動で、他人を巻き込んで町役場や小さなコンサートハウスを実現に向けて動いていく姿は、驚愕するものでした。都市から遠く離れた文化不毛地帯での戦いは険しいものでしたが、完成後の反響は

大きく、図面を描くだけではない、建築設計の醍醐味を目の当たりにしました。

働き始めて10年という節目で、2人目の子供の誕生を期に退所し、半年ほど育児休暇。そして新型コロナが発生しもう1年休んだ後、中規模の設計事務所に就職しました。現在は子供が小さいので週30時間の契約で働いていますが、設計の質を保つのに頭をフルに一日6時間通して回すともうぐったりです。ともあれプロジェクトに魅力をどれだけ与えられるかは結局自分次第なので、もう少し無駄なスタディをしたいなと思う今日この頃です。



農家の改修 02

原風景探し



しゅとう こうすけ
首藤 公輔

1967年 大分県生まれ
1991年 堀川研究室卒業
1991年 北川原温建築都市研究所
1997年 ヴェネツィア建築大学
2000年 首藤公輔建築研究所
一級建築士事務所設立
<http://www.kshuto.com>

いつも原風景のような建築を作っていきたいと漠然と考えていました。といっても結局のところ原風景とは何なのかがわからず、夢に現れては消えながら探し続けているような状態です。

大学時代は東京の設計事務所でのアルバイトでなんとなく実務を学び、その報酬で冬休みに数ヶ月間世界の都市と建築を廻りました。卒業後すぐに設計事務所で働くか、憧れていた留学をするかという悩みの中で、日本の設計事務所の実務経験を積もうと決め、その両方を叶えられそうな当時設立したばかりのアルドロッシ日本事務所に応募しましたがこの年は採用なし。次に応募した北川原温さんの事務所で働くことになりました。ここでどのようにして文学や思想が形態化され、建築として実現されていくかを興味深く学びました。想像以上の複雑な思考的プロセスと実務フローで、働くうちに目指すべき原



三笠の家外観 (Fig.1)

風景的建築にはどこまで自己が介入していくべきなのかという葛藤がありました。

退所後、留学の夢を諦めきれずヴェネツィア建築大学に留学。2年間の現地での生活は街を歩き、近郊都市を旅行したり、学生とコンペに励んだり、とても有意義な体験となりました。既視感を覚える潟の上に構築された街、人間らしい日常生活が営まれている立体構造の街、それがヴェネツィアでした。



松坂さとう消化器内科 (Fig.2)

帰国後に事務所を開設、幾何学と自然という対峙した構成を原風景という不確かなコンセプトをもとに三角屋根の山荘 (Fig.1) を設計しました。その後もこの概念に基づき、時には都市のコンテクストを読み込みながら病院 (Fig.2) を、ある時には日本の記憶を参照しながら都市型の住宅 (Fig.3) を、揺らぐ記憶を軸に今日も丁寧に設計作業を進めています。数値化された性能ばかりが取り上げられる近年の建築。そこにはない原風景探しを続けていくうちに、



自分を通して建築や都市にどのような貢献ができるのかという答えに近づいていけると思っています。

無意識のうちに野田キャンパスの運河の光景も私の原風景の一つに組み込まれているようです。

自白の家の大黒柱 (Fig.3)

ことで、何をお伝えしようかと考えましたが、先日、理科大で1年生を対象にお話した大学での仕事、研究や教育について、少しだけご紹介したいと思います。

木材・木質材料を用いた木質構造を専門に、日々、研究・教育活動をしています。活動の拠点は、九州大学のメインキャンパスである伊都キャンパスで、福岡市の最西端に位置し、都心部から離れている一方で、広大な敷地に恵まれています。大型の実験施設が併設され、様々な研究開発も自前の設備で実施できるのが魅力と言えます。

近年、建築業界の方は感じられていると思いますが、脱炭素社会の実現に向け、木材の利活用が推進されており、これは国外でも同様、むしろ、より日本より活発と言える状況です。戦後復興の過程で、鉄骨造、鉄筋コンクリート造を推進した政策の影響から、未だ分からないことが多く、一方で急速に大規模化することに不安を覚えつつも、少しでも未来が改善されればと割と地味な基礎研究を進め、また一方で木造の教育を受けた学生を増やすべく、色々と試行錯誤しながら教育内容を考えているような状況です。

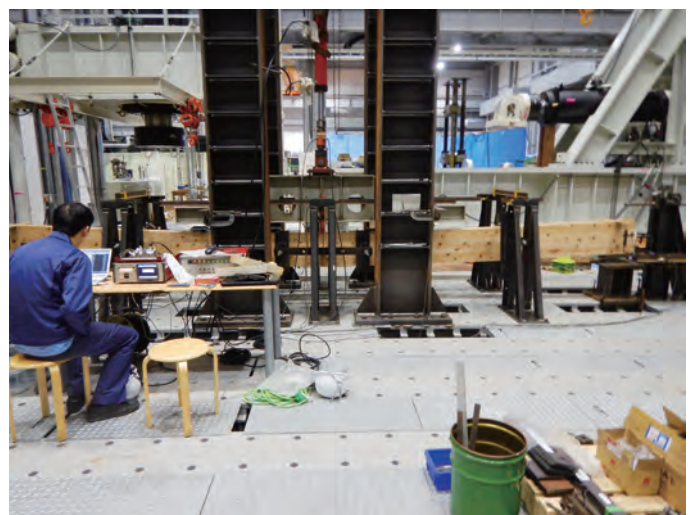
これをご覧になる皆様の中には、私よりずっと以前から木造の設計に取り組まれている方も、これから取り組まれる方もいらっしゃると思いますが、何かお困りのことがあれば、先輩・後輩の関係ですので、是非気軽にお声かけ頂ければと思います。皆様のご健勝をお祈りしています。



伝統的建築での構造調査



実大振動台実験



大断面木質部材の曲げ実験

九州で木造



さとう としあき
佐藤 利昭

2005年 東京理科大学大学院、修士課程
2007年 MASA 建築構造設計室、技術主任
2009年 東京大学大学院、博士課程
2010年 日本学術振興会、特別研究員
2012年 東京理科大学、PD 研究員・助教
2016年 現在 九州大学大学院、准教授

NAA に掲載させて頂くのは、2016年の3月に助教を退職したとき以来でしょうか。北村研の助教から九州大学に異動し、福岡に来てから早6年が経過しました。リレー式コラムという

テーマ「私達の働き方」～仕事と家事育児の両立どうしてる？先輩たちに聞こう！～

野田建築会では、在学生・卒業生の交流の場として、イベント「ノダ・アーキサロン」を不定期開催しております。

第3回となる今回のノダ・アーキサロンでは「働き方」をメインテーマとしてお届けしました。2021年秋に野田建築会会員宛に行ったアンケートから、卒業生たちが感じる「働きやすさ」について、女性と男性とでは感覚に大きく開きがあることがわかりました。また学生が将来に感じる不安の一つとして「家事や出産育児と仕事の両立」があげられていました。そこで、いろいろな立場の先輩達に登壇いただき、ざっくばらんに質疑応答、意見交換など、若い人たちへは将来へのヒントをもらえるような場を設けました。また、同大学の工学部建築学科の同窓会である「築理会」からも登壇者をお招きし、学部の垣根を超えたより幅広い交流が実現しました。

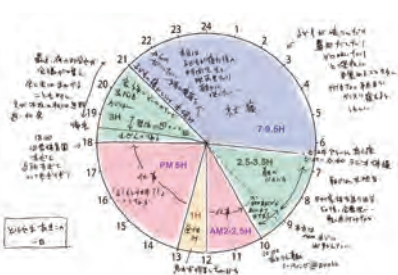
第一部では、各自の一日の時間の使い方を円グラフに表現いただき、コロナ前後の働き方の変化、仕事と家庭とのバランスのとり方などを主に語っていただきました。第二部では視聴者からの質問を元にトークセッションを行いました。

第1部「私達の働き方」

●とりやまあきこ 一級建築士事務所あとリエ代表

一級建築事務所あとリエ <https://atolie.com/>

大学院修了後、不動産会社の設計部に3年勤め、2006年に独立。2010年に第一子を妊娠した時は、周りに設計事務所経営をしながら出産育児をしている女性の前例がなく、不安しかなかった。出産後は思うように行かないことばかりで失敗もあったが、だんだんこの「子育て経験」が、新しい仕事につながるようになる。現在は事務所を週休3日制とし、基本、残業なしで仕事を回しており、スタッフや設計パートナーも子育て中の人ばかり。働き方という切り口で取材を受けることも増えてきた。



●唐木 研介 グッドサイトアーキテツツ一級建築士事務所代表

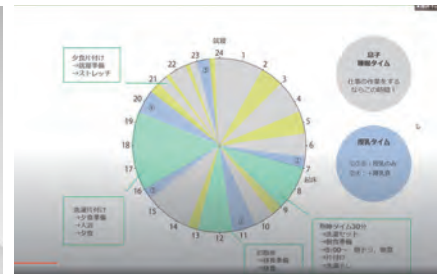
グッドサイトアーキテツツ <https://goodsightarchitects.com/>

自宅自営業で設計事務所運営、妻はフルタイムで働く総合職の会社員、保育園に通う4歳の男の子という家族構成。3年前に自身が1型糖尿病を発症してから食事に気を使うこともあり、料理と子供の送り迎えは夫の自分がメインで担当、妻はその代わりなるべくフルタイムで働くというフォーメーション。妻が出社後、私が息子を保育園に送り、家の掃除洗濯をしてから10時頃から夕方17時半ごろまで仕事、夕飯を作って保育園へ迎えに行き、夕食という生活。設計事務所に勤めていた時より仕事時間が圧倒的に短くなっているので、この中でどう効率よく仕事をしていくかが課題。



●藤井 千晶・井崎 恵 &fujiizaki 共同経営 &fujiizaki <https://andfujiizaki.jp/>

大学同期の藤井と井崎と一緒に同じ設計事務所に入所、勤務、2011年に一緒に独立して2人の設計事務所を立ち上げ、今年で11年目となる。自然の光や風を取り入れた心地よい空間作りがモットー。佐渡ヶ島で古民家を改修した宿の運営もしている。藤井が昨年第一子を出産。設計事務所勤務時代はそれぞれ片道約1.5時間かけて通勤、22、23時くらいまで働き、勤務が終わるまで夕飯がとれない日もあった。独立した頃は深夜まで働いていたが、結婚等を機に、それぞれ自分の時間をとるようになってきた。コロナがはじまってからは、井崎は在宅勤務がメインとなり、朝早くから仕事に取り組みつつ洗濯などの家事もできるようになった。藤井は、0歳7ヶ月の息子の授乳と睡眠時間をベースに細切れの時間割りで、子供の睡眠中や土日に仕事をしている。自営業者は育休産休もないため、なかなか理想通りにはいかないが、4月から子供が保育園に行くようになったら、平日の日中は事務所通勤体制に戻していきたい。

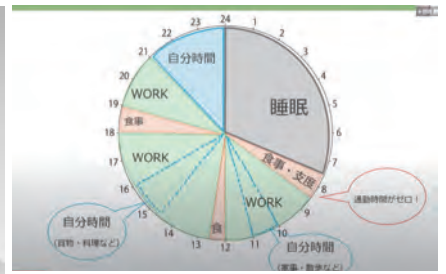


▲藤井氏 ▼井崎氏

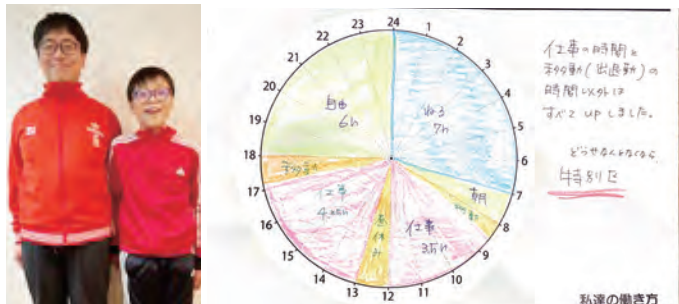


●越部 伸一 特別区職員

大学生時代から自分はあまり建築向きではないなと思いつつ、教授の勧めもあり、卒業後なんとなく設計事務所に就職し、11年も勤務する。今思うとよくやれていたなというハードな働き方だった。長男が誕生し、自分の時間を確保するために思いつきで見つけた公務員募集をポチッとしたり、採用、営繕課に配属され今に至る。平日に、息子の保育園入園式に行くことができたのがとても新鮮で、思えばそれまでは私も妻も仕事を優先しようという意識だったが、やろうと思えば仕事と家

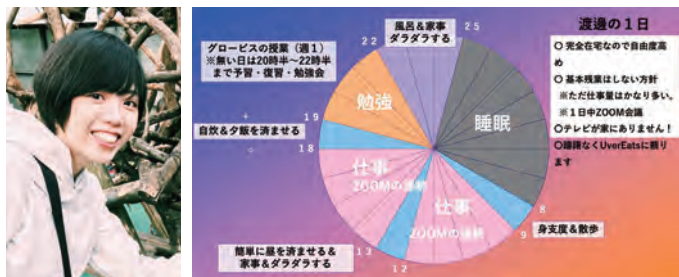


庭は両立できるんだという気づきがあった。建築業界で言う特別区職員の大きな魅力は、発注者側であるということ。今、なんとなく働いてしまっている、自分の時間がほしいという人には是非、特別区職員をお勧めしたい。



●渡邊 杏奈 飛騨五木株式会社 勤務

夫と犬との3人暮らし。卒論修論ともにカーテンウォールの研究に取り組んだことから外装会社に就職する。外装設計を担当した渋谷ストリームが完成し、それまで高かったモチベーションが下降に転じた。続く長時間労働、出張、図面量の多さからライフワークバランスが崩れる日々の中、結婚したことなどをきっかけにキャリアコンサルタントを取得し現在の会社に転職する。飛騨高山に本社があるが、会社にお願いいれ今は自分だけ東京で在宅勤務をしている。どんなに仕事があっても残業はしないと決めており、夜は経営の勉強時間に当てている。時間ドロボウになるテレビは捨て、ご飯も躊躇なく宅配を利用、やりたいことをやるために割り切った家事を心がけている。



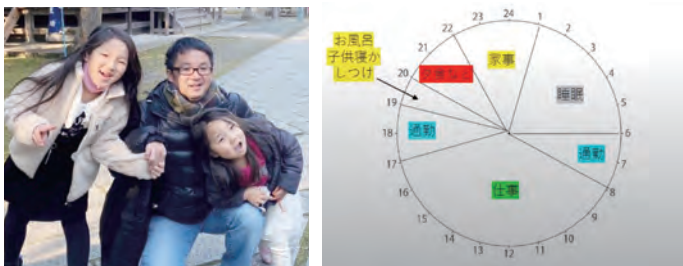
●深野 有紀 森ビル株式会社 人事部

新卒で出版社に就職、建築雑誌の記者として5年働き、六本木ヒルズ等の取材をきっかけに森ビルに転職、広報室で10年勤めて人事部に異動。現在は課長職として新卒採用、研修、安全と労務管理、最近はコロナ対策なども担当している。夫と長男(小5)次男(小1)の4人家族。朝は男子2人を8時に送り出して出勤、夕方5時頃まで会議等々で最近はその後の時間でリーダー向け研修等も増え夜8時頃に退社する日もある。IT系自営業の夫の方が比較的時間が自由なので、こども達には夕飯を先に食べさせてもらい、夕食は遅い時間に夫婦で食べてからリラックスタイム。在宅勤務の日もあり、コロナの影響で家族の時間は増えたと思う。最近は「在宅でも健康に過ごそう」をテーマとしている。



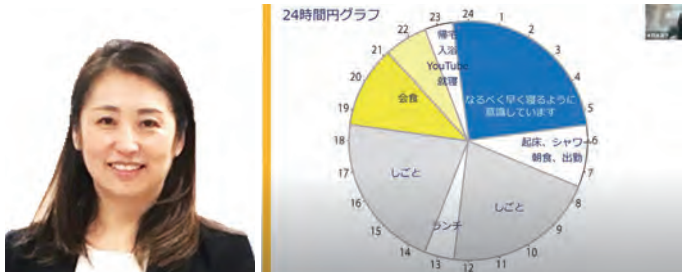
●北谷 太 積水ハウス 国際事業部 英国駐在

妻と娘2人との4人家族。娘たちはイギリス生まれで、里帰りや親の手を借りることができない中、全て夫婦でやる必要があった。イギリスの場合、定時で退社することが基本なため、夕方5時に退社して通勤時間2時間ほどかけて7時に帰宅。子供とお風呂に入り、寝かしつけをしてから自分の夕食を取り、家事をしてから睡眠、という生活でだった。これがコロナで在宅勤務をすると往復4時間の通勤がなくなり、その分を自分の時間にあてることができるようになり、非常に生活の質が非常に向上している。



●鈴木 敦子 コンサルティング会社経営

1997年に卒業し、施工会社に勤める。25歳で結婚、妊娠中の26歳で離婚、30歳頃の時に2回めの結婚2人の子供を産み6~7年後離婚、38歳頃に3回目の事実婚をし、43歳で別れて事実バツ2.5、子育ては終わり第2の人生中。2017年に3回目の会社設立し現在5年目。同期は卒業して27年のキャリアだが、自分は結婚出産を繰り返す中で、実際建築に関わったのは15年くらい。働いている中で、人手不足や給料で人が転職するのを見てきて、全ての人が健康でイキイキ働けるようにと、建設業に特化したコンサル会社を作った。現在夜は会食となる日が多いので、朝できるだけ早い7時台に出勤し、夜も早めに寝ることを心がけている。



第2部「トークセッション」

【テーマ1：コロナの前と後で働き方の変化、良かった点やジレンマを感じた点など】

とりやま：最近ではコロナで息子たちの保育園や小学校が休園、休校になったり自分自身が感染して2週間ほど家から出られなかったりと私自身も影響を受けている最中。

鈴木：以前からテレワークを導入していたので、その点は大きく変化はなかったが、周りも慣れてきてオンラインで効率良く打合せできる機会が増えてきた。逆に膝を突き合わせないと話せないことに時間が取りづらくなった。コロナ休校の影響でオンライン朝礼中にスタッフの子供が画面に現れるのが楽しい。

北谷：イギリスはコロナについての規制や制限がなくなって自由に過ごせるようになってきた。ただ、オンライン業務の良さを知り、引き続き出社しない働き方をする人が多い。自分も極秘情報を扱う打合せの時だけ、対面で人と会うようにしている。

深野：人事側として陽性者が出た時にどうするか、出勤率をどうするかなどに常に頭を捻っている。ビル管理などオンラインでできない業務もあり、バランスが難しい。コロナによってテレワークの技術革新が一気に進んだのは素晴らしい。また、安全安心に対する意識が高まったと思う。

渡邊：コロナ前からリモートワークをしていたので、自分の働き方は変わっていないが、当時は自分だけだったのが、今は遠方の行政との打合せもオンラインでできるようになり、地方の仕事がスムーズにできるようになりかなり楽になった。

越部：うちの区はあまりリモートワークは進んでいない。それどころか保健所としての仕事は、連絡がとれない各家庭に訪問しなくてはいけないので、むしろ陽性者や濃厚接触者より近いところで仕事をしている。

井崎：通勤時間がなくなり、作業時間が増えた。打合せもオンラインが増え、地方での完了検査をオンラインで行うことすらある。

藤井・井崎：伝え方や資料を予めオンライン用に整理することで、プレゼンや打合せがスムーズに行くようになった実感がある。模型だとオンラインで説明することが難しいので、パースや3Dを使うことが増えてきた。

藤井：夫が在宅勤務になったことは、産前産後のこの期間、すごく良かった。自分自身は家より出勤する働き方が向いていると感じており、今後、いろいろ試してみたい。

唐木：建築の打合せはオンラインでは難しいかと思っていたが、結構できるもんだなと実感している。まずはオンライン、必要であれば対面で打合せ、という順番になって効率が良くなった。海外にいるメンバーとも仕事が進んでおり、オンライン技術の進化を感じる。ただやっぱり模型を一緒に見たり、直接同じ図面にスケッチしたりできたらなと思う時もある。

とりやま：コロナを機に完全にスタッフ達は在宅勤務に切り替えたので、事務所の空いたスペースに来客用のキッズエリアを作ることができた。

【テーマ2：育児や家庭と仕事の両立、 効率よく仕事するにはどうしている？】

「唐木さんから出た『朝、息子を保育園に連れて行く際になかなか出発しがらない。子供を怒らずに上手く物事を進めるには皆さんどうしていますか？』という悩みについて」

深野：男子に言うことを聞かせるという発想がもともとなく(笑)、園児時代は泣こうが嫌がろうが「そうだね～」と言いながら、無理やり服を着せ、抱きかかえて連れて行っていた。小学生になると本人達にも社会ができてきて、「8時に友だちが来るから急ごう」など、少しずつ考えて動けるようになってきたようだ。

とりやま：「そうだね～」といったんいやな気持ちを認めてあげるといのはヒントかも。男子は本当に言うこと聞かないけど、女子は違う？

北谷：男女で違うというのは意識したことはないが、うちの娘たちは「行きたくない～」と言うことはない。そういう悩みがあるんだと、今驚いている(笑) たしかにイヤイヤ期はあったが、いつか終わると思って我慢できていた。

鈴木：うちの私の方が朝が苦手な、子供が朝起こしてくれていた。親がだらしがないのも一つの方法かなと思うし(笑)、正解は一つじゃないから枠にとらわれなくていいのでは。

とりやま：こうやって、いろいろな人の話を聞ける場があるだけでも子育て中の親にとってはホッとする場になると思う。

「2人事務所の& fujiizaki 藤井さんが出産したことで協業へ与えた影響は？」

藤井：もともと子育てを甘くて見ていて「なるようになるだろう」と産前はあまり真剣に検討ができていなかった。男女に限らず、妊娠前の気持ちに余裕がある時に、こうなったらこうしようともっと考えたり相談しておいた方がいいよって、今の若い人に伝えたい。

井崎：とりやまさんが独立した時に「なんとでもなるよ」と言っていたことが励みになっていて、大変でもきつとなんとかあると思っている。藤井は今大変だから、引け目に感じているようだが、今は落ち着いて仕事できているので、負担には思っていない。2人とも無理なくお互いの人生を最優先して生きていければと思っている。

とりやま：私自身も自分が妊娠した時に、仕事と子育ての両立ができるのか？と不安だらけだった。ただ、不安をあおるだけではなく、何とかできているという姿を見せられるようになりたいという思いがある。またこのイベントで女性だけでなく、男性たちの意見や姿を見てもらえていることにとても意義を感じている。

【テーマ3：五十嵐さん(野田建築会幹事68歳)からの質問】

「自分自身の20代は仕事が好きで、寝る間も惜しんで仕事に取り組んでいて、その時の苦労が今の仕事にも集約されていると思う。僕はどっちかと言うと公私混同派で仕事=私生活と考えていたが、皆さんにとっては「自由な時間」がどの程度仕事と重なっているのか？全く別物なのか？どう考えているか知りたい。」

とりやま：自分の時間が欲しい=休みたい遊びたいではないと思っている。うちは週休3日、残業なしで回しており、残りの4日を有意義に使って成長することができる時間も提供できている。また、目の前の仕事だけに向き合っていたら、男子トイレにはオムツ替え台を計画しないような、大切な事に気が付かない設計者になっていたと思う。建築に向き合っていない時間こそが建築に還元されている。

唐木：自分の若い頃は五十嵐さんと同じで、公私ずっと建築のことを考えていたからこの仕事を選んだ。ただ、子供が産まれてライフステージが変わる中でどうやって自分の時間を見つけていくのが今の課題。子供がいなかった時のようには働けないジレンマはあるが、今は人生の中で仕事がペースダウンする時期だと長い目で考えることも大切だと思う。

藤井：自由な時間は今は全くない(笑)。自分は仕事と自分の時間をはっきり分けたいタイプだと思っている、違う業種の人と話す時間でガス抜きできたりするので、今後、自分の時間ができたらやはり仕事と全く違うことをしたい。

井崎：20代は寝る間も惜しんで仕事をしてきたが、コロナでがらっと生活が変わった。今の楽しみは父の畑と一緒に野菜を収穫したり、それを料理したり、建築と全く違うことをやってリフレッシュしている。そういう時間をとれる事がいいなと思っている。

越部：現在の職場環境として、周りに建築が大好き！という人がいない。仕事に対するモチベーションがそこまで高くない方が一般的ではないのかとも思う。定時まで働いて家族との時間を大切にしたいという人、定時以降も残業をしたくさん稼ぎたい人、出産を繰り返し9~10年ほど育休を取り続けている人等々、若い頃の設計事務所勤務経験からすると「？」と思うことも正直あるが、そういう様々な考えや働き

方を全て許容できるというのが「多様性」であって、それを受け入れられる人でいようと思っている。

渡邊：言うならば24時間自由だと思っている。やりたくってやっている仕事なので、やらされている感はない。有給とかも明日はだるいなと思ったらパッととっている。自分の自由は守りつつ、周りに迷惑かけず周りも動いていくような働き方は両立できるものなので、世の中もっとそうなっていけば良いと思う。

深野：まさに今仕事で向き合っている話で、この話題で一晩語り合いたいくらい。今は法律で一定時間以上の残業ができないので、100～200時間も残業していた上の世代からすると信じられないくらい短い時間の中で成果を出さなくてはいけないし、若い人たちは、もっと働きたいと思っているけど、やらせてあげられないジレンマがある。私自身は、子供との時間も大切だし、この年になってくると、自分のやりたい仕事と公私混同しながら上手くやれるようになってきている。

北谷：日本で5年、イギリスで17年働いている中で、日本にいた頃は、休みの日も仕事をするような仕事中心の生活を

送っていた。今では全く違い、定時に上がり、休みの日はちゃんと休んでいる。日本の長時間労働が家族関係に良くない影響を与えており問題になっているようだが、子育てと仕事を比較したら、子育てしないと赤ちゃんは死んでしまうのだから、子育てを優先するのが普通であって、仕事のせいで子育てができないなんて有り得ない話だと思う。自分自身も子供が3歳くらいになるまでは仕事をセーブして子育てを優先してきたし、周りのイギリス人を見ても同様な人が多い印象。

鈴木：昔は今のように産休育休が義務化されておらず会社に守られていなかった。自分が子育てしている期間は、夫が働き自分はワンオペ育児で、それがとにかく辛くて仕方がなかった。そういう経験もあり、それぞれが自分の人生を考えて、働けるということがすごく大切だと思っている。こうやって大学というプラットフォームで若い人たちとつながれる機会がある中で、自分たちの経験を活かして社会貢献していけたらなと思っている。今は仕事のモチベーションが「子供に誇れる仕事をしたい、若い子に夢を与えたい」なので、仕事＝自由な時間、やりたいことだと思っている。

第3回ノダ・アーキサロン vol.3 参加者の声

イベント終了後のアンケートに16名の方から回答をいただきましたので一部をご紹介します。

アンケート結果

1) 本日のイベントはいかがでしたか？ご意見、ご感想をお願いします。登壇者個人へのエールでも嬉しいです。

- 日本人の働き方への向き合い方は、海外から見たら異常だろうと思うことも多く、もっと海外の人の割合を増やして議論するとヒントがあるのでは。
- 理科大建築OB会からの提言みたいな感じで世間へも提言できると、建築業界がもっと生きやすいものになるのでは。
- 若い人たちに夢ある姿を見せたいです。せっかくのOB組織であり、有意義な活動にしていきたいです！
- 理科大建築卒の方が色んな分野で活躍をされているのをお聞きして楽しかったです。
- 一日の時間の使い方の統一のデータがあって良かったです。
- 3月ですので、学生にとっては就職活動の時期です。学生や親にも見せたいと思える内容でした。
- 年配者の経験が後輩たちのためになるように、このような発信の場がもっと活性化できるようにしたいですね。一緒に頑張りましょう。
- 海外含め、色々な働き方、ライフスタイルのお話が聞けて良かった。海外との講演もできweb上では地域の枠が関係ない事を改めて感じた。
- 現在育休中です。0歳の息子を育てる中で、時間の使い方の難しさに直面しています。今回、様々な仕事や立場の方の子供との時間、仕事の時間についての考え方を知ることができて、とても勉強になりました。
- 育休空けには働き方を変えたいと思っていましたが、今回聴講させていただいて、多様な働き方を知ることができる機会になりました。
- とても良かったと思います。若いときは建築や仕事に取り憑かれるんだと思います。
- アンケートを募ってのテーマ設定だったため、登壇者が同じ目線でディスカッションできた点がとても良かった。登壇者の年代的には、ライフワークほぼ無視の時代を経て、

今に至る世代が多かったので、お互いの認識を共有できたのかなと感じました。

- 視聴いただいた学生さんには、感想を是非お聞きしたいのと、ノダ・アーキサロンって、けっこうおもしろそうだよ！（と感じてくれたらですが）とツイート発信してもらえると、次回企画の励みになります。特に学生さんの視聴者を増やしていきたいので。

- 時間の確保の仕方について、みなさま、相当の工夫と努力、そして、時間を大切に作る強い気持ちがあり、感銘をうけた。
- 困ったら色々相談させていただける方がいらっしやるのだと心強く思いました。

2) 今後開催してほしいイベントのテーマや、話を聞いてみたい人がいたら教えて下さい。

- 同じテーマで良いと思う。もっと登壇者が少なくても成立するのかなと思いました！一人一人の方にもっといろいろ聞きたかったです。
- 建築でなく他の分野でも活躍されている方達の仕事の話も聞いてみたいです。
- 定年退職を迎える世代、退職後の方々に、社会、業界の未来のために、今後の働き方についてご意見いただきたいです。
- 自由時間についての話はもっと多くのバリエーションに広がると魅力的です。
- 海外で働いている方の働き方。
- 京都伊根で宿を経営している人がいます。異種の経営者に話を聞くのはどうかと思います。
- 学生さんもディスカッション参加できるといいです。
- 働き方のテーマはOB会主催の交流テーマとしてはとても良いと感じました。もっと若世代(卒業10年以内)、現役学生を登壇者に交流を図ってはどうか？両会とも新規会員を増やす機会にもなる上、OB会の役目も果たせるのではないのでしょうか？
- 60歳からの働き方を聞いてみたいです。
- 「働き方」をテーマに、世代や分野を変えてまた様々な方の話を聞いてみたいくなりました。また、「健康」というテーマも提案頂き、それも面白いなと思っています。

2021 年度 NAA 賞紹介

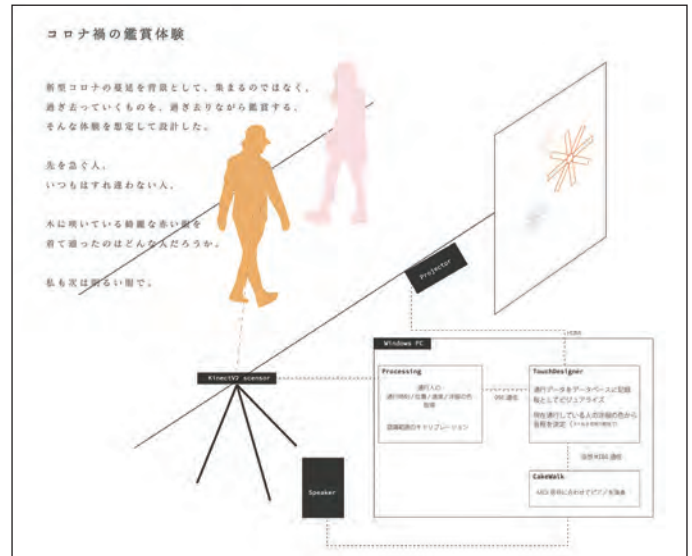


受賞者：品田 ^{しなだ} ^{とむ} 十夢 (2022 年 3 月卒業、西田研究室)
 作品タイトル：春をまとう

作品説明：

運河駅を利用する人々が通るたびに、映像の桜に花が咲いてゆく。花びらの色は通過した人の服の色を反映し、同時に色相から決定された音階でピアノの BGM が生み出される。

新型コロナの蔓延の中で、集まらずに過ぎ去りながら、過ぎ去るものを鑑賞する体験を目指した。



受賞理由

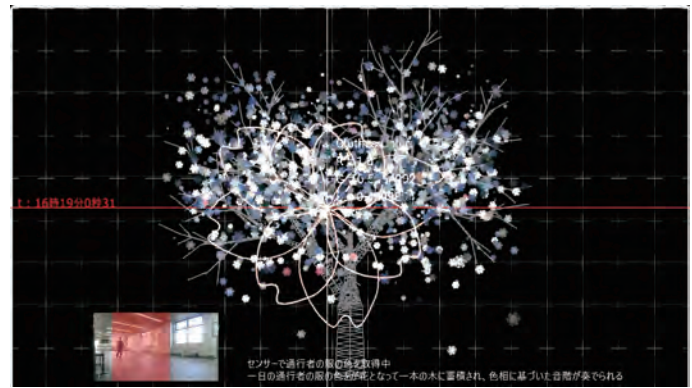
コロナの時期に、最寄りの運河駅にあるギャラリーに、「春をまとう」というデジタル作品を制作展示し、コロナで鬱屈した日々、春の祝祭性を提供し大きな話題になった。作品は、通りすぎる人の洋服の色をセンサーがスキャンしていき、その色の桜の花びらがスクリーンに出現し、花を咲かせるもの。人が滞留せずとも、作品には色と音がアーカイブされる春の訪れを祝う作品。

品田十夢さんは、明晰な思考力・力強い行動力・高いコミュニケーション能力を備えており、建築学科で建築を学び優秀な成績を取めつつ、人と空間が交わるように常に自分から働きかけることを実践した。

以上の活動および業績をたたえ NAA 賞を授与する。



授賞式の風景



受賞コメント

この度はこのような名誉ある賞をいただくことができ大変光栄に思います。

一年生の頃からプログラミングで映像を生み出すジェネラティブアートや、音響と共に制御するインタラクティブアートなど他学科の学生とも共同しながら制作してきました。本作品は運河駅利用者の通行データを映像と音響でフィードバックするもので、今後もデジタルアートの手法から建築の表現や建築と人の関係をどう変えていけるか、さらに探求できればと思います。

建築意匠で培った価値観（人とつながりあって生きる豊かさ、物や風景への愛着、それらを持続可能にするデザインなど）を軸に、様々なツールを選択肢に持ちながらいろんな人と連携してものを作ることで、いつか社会に貢献できればと思います。



今回の NAA 賞副賞 イサム・ノグチの AKARI

2021年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各賞受賞者リスト

【理工学部建築学科】

卒業論文賞 (一般コース)	最優秀	伊藤研	大森 彩香 大山 優
	優秀	山名研	柿本 尚紀
	優秀	伊藤研	島 茉莉香 平井 聡一郎
卒業論文賞 (通年コース)	最優秀	吉澤研	小野 真穂
	最優秀	大宮研	松浦 龍之介
	優秀	大宮研	木村 勇登
	優秀	山名研	會谷 華
	優秀	衣笠研	佐々木 里絵
	優秀	大宮研	谷川 太一
卒業設計賞	最優秀	西田研	青木 廉
	優秀	垣野研	鈴木 理斗
	優秀	西田研	佐藤 有希子
	優秀	岩岡研	半田 智大
学業優秀賞	1位	伊藤研	木山 秀一
	2位	吉澤研	阿久澤 裕香
	3位	衣笠研	久保 海斗

【理工学研究科建築学専攻】

修士設計賞	最優秀作品	垣野研	藤田 正輝
	優秀作品	岩岡研	南 あさぎ
	優秀作品	岩岡研	上山 駿介
修士研究奨励賞	最優秀賞	吉澤研	志田 輝
	優秀賞	永野研	鈴木 健太
	優秀賞	衣笠研	山本 慎

【共通】

NAA賞		西田研	品田 十夢
北村春幸賞	優秀賞	永野研	菊池 映見佳
	優秀賞	衣笠研	山本 慎
	優秀賞	宮津研	下山 雅人

学部長表彰	—	上山 駿介 大石 夏輝 大野 裕介 樽木 奈生美
空気調和・衛生工学会振興賞学生賞	高瀬研	篠原 幸佑
日本建築材料協会 優秀学生賞	兼松研	細川 隆行
日本建築仕上学会 学生研究奨励賞	兼松研	横山 剛士

新コーナー!

若手社会人の声 ～卒業して今思うこと～



ありよし やすひろ
有吉 泰洋

2013年 桐朋学園高等学校 卒業
2018年 東京理科大学理工学部建築学科 卒業
安原研究室出身
2020年 東京理科大学
理工学研究科建築学専攻 修了
西田研究室出身
2020年 東急建設株式会社 入社

この度はこのような貴重な場に掲載する機会をいただき誠にありがとうございます。

早速本題にはなりますが、私は今年で大学を卒業して丸2年経ち社会人3年目になりました。そんな今思うことは「日々勉強」ということです。

現在、私は建築設計の仕事をしており、先輩方から対人スキルに始まり設計細部の納まりなど様々なことを学びながら刺激的な日々を送っています。昨年、一級建築士試験に合格し資格を取得することができましたが、仕事ではわからないことばかりです。一度学んだことでも与条件が少し変わるだけで通用しなかったりするので勉強の毎日です。現在は教育系の設計に携わっており、何件かこなす内に教育系の面白さや難しさなどを理解しはじめ一喜一憂しながら仕事をしています。最近では裁量の大きな仕事も任せていただけるようになり人前にも増え、刺激のある一方で関係者の方々と設計をまとめていく難しさ、大変さを以前よりも一層感じるようになりました。今後も日々勉強する姿勢を忘れずに、楽しみながら精進していきたいと思っています。

末筆ながら、野田建築会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

信じるんだ、自分を、仲間を、叶える力を。

Believe.

高める、つくる、そして、支える。



熊谷組





【東京理科大学ホームカミングデーおよび記念講演会のお知らせ】

(理窓会山崎晃弘 / 上原研卒 1976)

■第17回ホームカミングデー 10月30日(日)9:00よりオンライン開催
理窓会HPで適宜お知らせ <https://tus-alumni.risoukai.tus.ac.jp/homecoming/>
会報秋号の発送時にホームカミングデー「ガイドブック」を同封します。



■記念講演会 11月13日(日)13:00より神楽坂記念講堂(1号館17階)
日本建築学会賞(論文)受賞 **大宮喜文氏**(理工学部副学部長 / 上原研卒・若松研修了 1992)
ベネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞受賞 **寺本健一氏**(小嶋研卒・修了 2000)
プログラム詳細は案内チラシ10月中旬(事務課)、
野田建築会HPで適宜お知らせ <http://www.rikadaikenchiku.com/>
懇親会(参加費1000円、学生無料)は状況により、変更の場合があります。
申込みは先着順ですが、収容定員の制限により抽選の場合があります。

【編集後記】

今回の会報より野原さんも会報部会の委員として活躍いただきました。メンバーが増え嬉しいかぎりです。また、今後の会報の企画内容や紙面発行について、若いOBの意見も取り込みたいと、竹中工務店の村松佑樹さん、東急建設の有吉泰洋さんの若手2人に協力依頼をし、私たち会報部会委員3名とTeamsでのフリートークを実施しました。今後は若い方の意見も取りこみ、会報のあるべき姿を模索しながら、会報を充実させたいと考えております。会報を手にとられている皆さまからも広くご意見、アイデアを頂きたいと思っております。(大野芳俊)

3月に開催したノダ・アーキサロン vol.3は、工学部建築学科の同窓会である「築理会」と「野田建築会」との史上初の合同イベントとなり、大変刺激の内容となりました。イギリスから登壇してくれた積水ハウス国際事業部の北谷さんは、この9月よりなんとシドニーへの赴任が決まったと連絡をもらいました。下のURLにあるようなジャンヌーベルとの共同プロジェクトなど、開発投資額100兆円の運用をするそうで大変ワクワクする仕事になりそうだということです。慢性的な人材不足らしく、英語と建築と金融が出来る学生さん(例えば、理科大卒業後に海外大でMBA取得なんて方)、ウェルカムだということなので、興味ある方は是非!

https://www.sekisuihouse-global.com/pjt/australia/central_park/ (とりやまあきこ)

表紙の写真を撮りに運河へ行ってきました。東武線に乗り驚きが、運河駅から大宮方面について、梅郷駅から清水公園駅の間が高架線に、それも単線のままです。乗車需要が見込めないためでしょうか、チョット残念と思うのは私だけでしょうか。駅から大学に向くと、正面の2号館は今も変わらず、その横を歩いて行くと、昔は各学科の実験棟が連立していた場所に、一見実験施設に見えない建物が今回表紙の新実験棟となります。さて、今回より私と共に新たにメンバーとなりました方々と、読者みな様と共に、楽しんで頂ける会報にしていきたいと思っておりますので、今後ともご意見ご協力をお願いいたします。(野原聰哲)

会費納入のお願い

NAAでは会則により、2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、ノダ・アーキサロンの開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。
※年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記HPよりお問い合わせください。

野田建築会会報 VOL.47 2022 AUTUMN

2022年10月1日

編集:会報部会(大野 芳俊/とりやま あきこ/野原 聰哲)

発行:東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

銀行振込 ゆうちょ銀行 店番号 019 当座 27644

(氏名の横に『学部の卒業年』を西暦で記入してください)

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

